

平成30年度 小城市立三里小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふれあい チャレンジ きらりかがや く 三里の子の育成	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) たくましい体の育成

3 目標・評価

① 確かな学力の定着と指導力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基本的な学習習慣・態度の定着	・学年相応の基本的な学習習慣を身につけることで学力の向上に必要な基礎を築く。	・児童が学習習慣として意識できるよう、県教委作成の「家庭学習の手引き」とあわせて、「家庭学習十ヶ条」「自習学習の例」を各家庭に配布し、活用のおねがいと懇談会等での保護者啓発を図る。
		確かな授業力の向上、専門性を高める研修	・確かな学力を身に付けさせるために「分かる授業」づくりを行う。	・校内研究における毎時間の授業づくり、研究授業、スキルタイムなどを行い、学習過程や取組の共通化を確認し、実践する。 ・授業後の研究会から出てきた成果や課題をもとに、次の授業の指導案作成や事前指導に生かす。各グループで検討し、「分かる授業」づくりを行う。 ・理解の定着を図る時間を学習時間内に確保し、形成的評価やまとめの時間を充実させる。
		読書活動の推進	・読書習慣の定着と読書好きな児童を目指し、全児童の100冊読破を目指す。 ・様々なジャンルの本を読む。	・3月末までに全児童の100冊読破を目指す。 ・貸出時における個人貸出冊数の意識付けを行う。 ・様々なジャンルの本を紹介する場を設け、図書館に行く機会を増やしたり、読書を促したりする。 ・「としょかんだより」で学年別貸出数を公表する。 ・国語科や学級活動など学習に関する本を1つのコーナーにまとめ児童の関心を高める。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICTを積極的に活用した授業の実施	・電子黒板やタブレットPCなどICTの有効性を検討し、児童の関心意欲と思考力を高める。	・各教科において、電子黒板やタブレットPCの有効な活用方法を研究し、授業で用いる。 ・ICTを利用した学習の推進や機器の操作などに関する職員研修を行う。

② 人間性豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●心の教育	礼儀・あいさつ	・明るい挨拶、元気な返事、正しい言葉づかいができる児童を育成する。	・今年度の生活目標に「明るい挨拶、元気な返事、正しい言葉づかい」を掲げ、「いつでも(朝だけでなく)、どこでも(職員室前だけでなく)、だれにでも(家族、地域の方にも)」の言葉を加え、家庭教育指針強化週間を設定し、呼びかけていく。お便りを通して、児童に還元していく。
	●いじめ問題への対応	いじめゼロ	・子どもの心の状態を常に把握し、いじめの早期発見、早期解決に努める。	・QUテストを、学校全体で学級づくりに活かすことができるよう、講師招聘の職員研修会を実施する。 ・三里小いじめゼロ宣言を児童に示し、「いじめに対する危機意識」を高める。

③たくましい体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	児童の健康的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣を身につけさせる。	・基本的な生活習慣を身につけ健康的な生活を送ることの大切さを保護者や児童に発信するため、「ほけんだより」や掲示板を活用する。 ・保健室来室時や教育相談時など、教育活動全体で場面に応じた保健指導を行う。
		たくましい体づくりの推進	・継続的な体力づくりを推進し、やり遂げる児童を90%以上にする。 ・体育的活動の充実により、運動や外遊びが好きな児童を育成する。 ・給食を残さず食べる。	・毎日の朝ランニングへの参加を奨励する。 ・運営委員会主導のもと、長縄集会やスポーツチャレンジ週間を計画し、全員が運動に親しむ機会を増やす。 ・給食を残さず食べる態度を育てるため、栄養教諭を招いて食について学ぶ機会を設定する。(学級指導、なかよしタイム等)
	○体験活動の推進	体験活動を通じた実践力の育成	・総合的な時間や三里ふれあい自然塾等での体験活動の実践と見直しを行い、活動の充実を図る。	・自然体験、農業体験、ボランティア体験の目的を児童に理解させ、主体的・計画的に取り組む。 ・振り返りカードを作成し、次年度の縦割り班活動、三里ふれあい自然塾などの活動に活用する。 ・地域の方や、ボランティアスタッフの方に対して感謝の気持ちを持って、あいさつや礼儀を示すことができるように指導を徹底する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標及び経営方針、重点的な取り組みの周知	・学校目標や重点取り組みを周知徹底し、その達成率90%以上をめざす。	・学校教育目標の意味や目指すところについて、学校説明会等で具体的に説明する。 ・学校便りで、教育目標にかかわる取り組みや成果、児童の成長について知らせる。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5%削減する。 ・定時退勤日を金曜日に定め、厳守する。	・校内のサーバーを活用し、職員が校務データを共有することで仕事の効率化をはかる。 ・市内の校務支援システムを使って、回覧板機能やアンケート機能などを活用する。また、その具体的方法を研修を通じて、職員のスキルをアップさせる。 ・教職員の業務記録を確実に把握するとともに、業務の偏りがないように配慮する。
	○開かれた学校づくり	保護者や地域に信頼される学校づくり	・地域行事へ積極的に参加し、地域と学校の繋がりを太くする。 ・学校の情報をいろいろな方法で積極的に発信する。	・青少年育成会や三里ふれあい自然塾、三里まちづくり協議会と連携し、児童にかかわる行事に積極的かつ計画的に参加する。 ・学校便りを月2回以上発行する。児童の活動の様子は随時HPに掲載したり、校内や支館の掲示板で地域に知らせたりする。 ・教育成果を授業参観、運動会や三里フェスタ等の行事で公開する。
		保護者・地域との連携 地域の生活文化の拠点となる学校づくり	・「学校は保護者や地域と連携・協力して教育活動に取り組んでいる」と思う保護者を90%以上にする。	・学校を地域の生活文化の拠点とするため、学校行事や育友会行事等について、機会をとらえて積極的にまた早めに学校から情報発信する。 ・行事毎のアンケートや様々な機会を利用して、保護者や地域の声を聞き改善を図りながら、小規模校ならではの、地域に根差した「特色ある学校づくり」に取り組んでいく。